

平成 29 年 10 月 6 日

## 10 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

新材シーズンに入り、栃木をはじめ近県の原木生産は順調である。栃木では 9 月は間伐材中心の生産であったが、10 月はスギ、ヒノキともに良材を中心に、また近県でも良材・並材の入荷が予定。価格は原木の品薄により値上げに転じている。10 月は良材が多くなるため、スギ・ヒノキとも上昇基調の見込み。なお、九州 3 県の買い方が参加した原木市場では、スギ柱材単価が前回市より 1,500 円/m<sup>3</sup>以上の上げが見られた。

群馬の製材工場では原木の流通量が増加し集荷しやすくなってきている。しかし例年に比べると全体量は少なく、山土場からの直送を増やして対応。原木在庫は確保されているが、材種、径級等で依然アンバランスな状況が続いている。価格は低位安定状態にあるが、スギ・ヒノキ 4m, 90 角、105 角は多少の値上げとなっている。学校等の公共工事と首都圏製品市場からの引き合いが多いが、地場からの受注は少ない。

### 2. 米材

米加北西部では 9 月に入り、気温低下と降雨があり、入山規制は緩和され、中旬より通常伐採に戻っている。しかし港頭在庫が激減の中、船積みは通常通りのため、在庫の積み上げに至っていない(特にカナダで深刻)。ウェアハウザー社の 10 月積み対日価格(推定)は前月に比べ、尺上、尺下とも \$20 アップ。米国製材工場の原木購入意欲が引続き旺盛であり、国内価格と輸出価格の広がった乖離を埋めるため大幅な値上げとなったが、乖離は依然埋まらず、11 月積み対日価格も値上げの公算が強い。米国内製材品価格が高騰中で歯止めが掛からず、ランダムレングス紙の 15 種平均価格(10/2)は \$436/M で 9 月頭に比べ 8.2% アップ。来年度以降、大手メーカーが SPF J-GRADE の生産を減らす話が出ており、今後更に買いづらくなる可能性がある模様。

8 月の原木入荷量は 195 千 m<sup>3</sup>、1-8 月累計で 1,771 千 m<sup>3</sup>、前年同期比 6% 減。出荷量は 198 千 m<sup>3</sup> で入荷とほぼ同量。1-8 月累計では 1,814 千 m<sup>3</sup> となり出超、前年同期比 2.2% 減。在庫量は前月より 3 千 m<sup>3</sup> 減の 213 千 m<sup>3</sup> となり、在庫率は 3 カ月連続で 1 カ月割れとなった。9/1 に国内大手製材工場が全品 2,000 円の値上げを実行。

9月のTLT(東京木材埠頭)の米材製材品入荷量は30千 $m^3$ (前月比3.0%増)、出荷量は28千 $m^3$ (同8.5%増)、在庫量は52千 $m^3$ (同10.3%増)。4~9月の米加材の入・出荷とも前年比同水準になった。

### 3. 南洋材

サバの伐採地では1週間の半分程度が降雨で港頭在庫は全く少ない。サラワクの天候も同様で、丸太輸出枠の削減(7月より30%→20%)もあり、大手合板工場では対日向け納期遅れを宣言する工場もある。PNG、ソロモンは過去の気候パターンが崩れ、予想は困難。インドネシアも原木伐採は天候不順で低調である。10月の原木入荷(推定)は15千 $m^3$ 、出荷は横ばい、在庫は今後減少。合板用、製材用とも原木在庫は少ない。製材品入荷も少なく、数量の多いフリー板市況が今一つ、平割は低位安定、デッキ材の販売は比較的好調。

### 4. 北洋材

夏山伐採が終了し、搬出もほぼストップ。製品は中国等の購買意欲が高く、現地メーカー同士での原木の取合が続き、原料価格は高止まり。原木輸出価格はカラマツ・エゾマツ・アカマツとも\$145-163で保合、アカマツ原板は\$380の保合。現地挽き完成品3cm×4cmは在庫が多いため、価格維持に苦戦。3mタルキはマンション不調が続いており、荷動きは鈍い。国産完成品では良質グレードが堅調。8月の原木入荷量は11.8千 $m^3$ (前年比12.0%減)、出荷量11.5千 $m^3$ 、在庫量は22.7千 $m^3$ で1.8ヵ月、製品入荷量は51.2千 $m^3$ (同5.1%減)。

### 5. 合板

国産原木の入荷は順調、ロシア産カラマツは出材低調で強含み。米材も原木生産が低調で価格は上昇。南洋材も出材低調で依然として価格は強い。インドネシアでは天候不順から原木品質の低下や毎月上昇する原木コスト問題もあり、普通合板を中心に全体的に生産は滞っている。またマレーシアでも原木状況は相変わらず厳しく、最大手シッパーも受注残が増えているが、生産量を増やせない状況。原木不足の解決は見込めず、各工場とも生産量の落ち込みは大きい。8月の国内合板生産量26.7万 $m^3$ のうち針葉樹合板は25.5万 $m^3$ と前月よりやや減少しているが、実働を勘案すると高水準である。出荷量も25.0万 $m^3$ と8月では高水準を記録。生産量が出荷量を約5千 $m^3$ 上回り、在庫量は11.0万 $m^3$ 、うち構造用合板は9.3万 $m^3$ に増えているが、依然低水準の域にある。国産針葉樹合板の10月販売価格は横ばい。木建ルートでの受注残の消化は進み、9月の値上げ30円分の浸透も進んでいるが、未だ8月以前の価格も散見される。全体的に需要の衰えは見られず、価格の浸透も時間の

問題と見られる。針葉樹合板は不足気味、輸入合板は薄物 G1、型枠が流通で皆無の状態。塗装合板も不足感が続いている。8月の合板輸入量は前月より0.8万m<sup>3</sup>増の23.3万m<sup>3</sup>となったが、現地の天候不順や原木状況の悪化、さらに国内マーケットでの一部品目の逼迫感を勘案すると予想以上の水準と言える。またマレーシアからの輸入は9.3万m<sup>3</sup>、インドネシアからが7.3万m<sup>3</sup>と偏りもなく、平均的な輸入推移となった。

## 6. 構造用集成材

ラミナ入港は順調。第4四半期のラミナ提示価格は引き合いの強いRWが270ユーロ(前回比3~5ユーロ高)、WWは255~260ユーロで据え置き。為替レートの影響が大きく円貨ベースでの到着価格は上昇する見込み。国内販価はRW平角59,000~60,000円、WW管柱1,850~1,900円。国内集成材メーカーの受注は好調。RW梁桁の荷動きは良いが、WW柱・間柱は鈍い。RW柱、梁桁の受注残があり、10月も販売は好調。ラミナの価格高騰、ユーロ高によりRWは全般値上げ。国内集成材は値上げの一途だが、安値在庫の輸入集成材が値上げを押し替えている。しかし10月以降は高値製品が入港するため、年末から年明けにかけて集成材市況は上がる見通し。

## 7. 木材チップ

チップ原木の入荷は順調、特に国有林関係が多い。解体材の入荷は例年並み。消費は製紙用が一部製紙会社で抄き物の配合変更によりL系の消費が大幅に減少。燃料用は製紙用の抑制分がFIT用に流れている。在庫は製紙用が高めで推移、燃料用も定期修理のため増加傾向。チップ工場では製紙用への減少分をバイオマス発電用でカバー出来ている工場とそうでない工場で操業率に差が出ている。

## 8. 市売問屋

構造材はスギ、ヒノキともに当用買いの域を出ず、荷動きは悪い。外材構造材も同様である。造作材は国産材、外材とも無垢材の使用量が減少傾向にある。ここに来て市場への引き取りの客が少し増えているが、細かい。市場内に不足材が感じられない状況。

## 9. 小売

スギKD柱・小割・板割は保合、ヒノキKD柱・土台は強保合。外材はアカマツタルキ良材が品薄で強保合、米ツガ角・平割とも品薄で強保合、SPFは保合、WW間柱は弱保合。造作材はスプルー、ピーラー平割、タモ平割とも

保合。集成材は WW 柱、梁は保合、RW 梁、柱ともに強保合。合板は国産針葉樹合板は強保合、ラワン合板の輸入品は強保合、コンパネ・塗装パネルともに強保合。プレカット加工は順調に推移している。

10月の需給・価格動向

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
南洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↗
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↘
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗